

船舶事故等調査報告書

平成26年2月27日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2013広第200号
事故等種類	乗揚
発生日時	平成25年5月22日 16時10分ごろ
発生場所	広島県竹原市竹原港 竹原港竹原外港防波堤灯台から真方位078°4,550m付近 (概位 北緯34°20.1′ 東経132°57.8′)
事故等調査の経過	平成25年11月14日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数	貨物船 第三 ^{だいしん} 大伸丸、497トン
船舶番号、船舶所有者等	134510、大寿汽船株式会社
乗組員等に関する情報	船長、五級海技士（航海）
死傷者等	なし
損傷	船底に凹損
事故等の経過	本船は、船長ほか4人が乗り組み、竹原港の中国電力発電所専用ドルフィン棧橋（以下「本件棧橋」という。）でクリンカ（セメントの材料）約700tを積み、船首約2.26m、船尾約3.70mの喫水で船首に2人を、船尾に2人をそれぞれ配置し、福岡県苅田町苅田港に向けて出港した。 船長は、船橋において1人で操船に当たり、離棧直後、右回頭中、平成25年5月22日16時10分ごろ船底が浅所に接触したような衝撃を感じ、広い場所に出て点検したところ、船体に異常が認められなかったため、目的地に向かった。 本船は、後日、入渠 ^{きよ} した際、船底に凹損が発見された。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 西、風力 3、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の初期
その他の事項	船長は、本事故周辺水域を幾度も出入港していた。 船長は、潮が上がってから出港すればよかったと思った。 海図によれば、本件棧橋の前面水域は、水深が3.6mである。
分析	
乗組員等の関与	あり
船体・機関等の関与	なし
気象・海象の関与	あり
判明した事項の解析	本船は、竹原港の本件棧橋で離棧作業中、船長が上げ潮の初期に離棧したことから、浅所に乗り揚げたものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、竹原港の本件棧橋で離棧作業中、船長が上げ潮

	<p>の初期に離棧したため、浅所に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>船長は、本事故後、潮汐表を調査した上、満潮時に出航することとした。</p> <p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 船長は、喫水、航行海域の水深及び潮汐を調査し、航行の安全を確保すること。